

## 特集：魔法の習慣 9

### 終章

# すべてはきっかけから始まった



魔法の習慣プロジェクトチーム  
東京都中小企業診断士協会

第1章から第5章まで、5つの企業・団体を見てきたが、強烈な「きっかけ」があったことがわかった。我々取材陣の考えた想定である、「強烈な『きっかけ』があり、そこから志を育み次につなげ、企業・団体の『企業理念』、『ビジョン』、『ミッション』を生み出していったのか？」について本特集の最後に振り返りを行い、まとめることとした。また、魔法の習慣についても改めて着目する。

#### 第1章 株式会社ピーターパン

##### 【きっかけ】

幼い娘から「お父さんは何もお仕事はしていないじゃない」と言われ、パン事業への転身を決意したこと。

##### 【きっかけをどのように次につなげたか】

当時は技術が未熟だった分、焼きたてのパンを提供することでお客様に喜んでもらった。多角化で伸び悩んだ時期は、創業当時のお客様の笑顔と初心を思い出し、事業を再構築した。

##### 【企業理念・ビジョン・ミッション】

- ・私たちはお客様を笑顔とおもてなしの心でお迎えし、常に品質を向上させ、美味しい焼きたてのパンを提供します。
- ・私たちは、1人ひとりの可能性を尊重し、共に学び共に成長し、お客様と共に幸せになります。

##### 【魔法の習慣】

善い行いを日々積み重ねることで、その人自身から滲み出るホスピタリティを醸成する。

#### 第2章 株式会社ツバサ・翼学院グループ

##### 【きっかけ】

順風満帆なビジネスマンとしての生活を送る中、家庭の問題等から体調を崩す。自身も幼少時からの注意欠陥・多動性障害の苦しみがあったため、「困っている子どもたちのために生きよう」と決意。

##### 【きっかけをどのように次につなげたか】

1人ひとりとの対話による思考訓練と、徹底的に定式化した問題の反復練習を重視した「芦澤式」学習法を生み出す。

##### 【企業理念・ビジョン・ミッション】

- ・「子どもと保護者」、「社員の家族」、「地域住民」の3つの宝を大切にする「三宝良し」
- ・「教育・福祉・心理」の自社部門が三位一体となって、地域資源とも連携を図り、1人ひとりの子や保護者を支える」

##### 【魔法の習慣】

答えは現場にある、迷ったら現場で「対話」を通してお客様やスタッフと向き合う。

#### 第3章 株式会社フィジカルアイ

##### 【きっかけ】

業務の中で思いがけずCGというものに出会ったこと。

##### 【きっかけをどのように次につなげたか】

- ・自分の価値は何なのだろうと自身に改めて問いかけ、真正面から向き合ったこと。
- ・夢を追い、自ら実践することを決意した。

【企業理念・ビジョン・ミッション】

- ・「映像を通じて、人々のコミュニケーションをより“伝わる”ものにしたい」
- ・「将来的にCGとAIを融合させ、新たなものを作り出し社会に貢献したい」

【魔法の習慣】

- ・困難なことがあってもあきらめず、成果が出るまでやり続けること。
- ・夢を持ち、夢に向かって努力すること。

第4章 医療法人社団 焰 やまと診療所

【きっかけ】

- ・父親が末期がんで亡くなり、何もできなかった自分に無力さを感じたこと。
- ・ミャンマーでの医療経験で、「生まれしものには最期がくる」という死生観に触れたこと。

【きっかけをどのように次につなげたか】

最期まで自分らしく生きることのできる環境を作りたいと考え、在宅医療を主とした診療所を開業。

【企業理念・ビジョン・ミッション】

自宅自分らしく死ねる そういう世の中をつくる

【魔法の習慣】

毎週火曜日に院長自ら講義を行い、その考え（理念やスタンスなど）をスタッフに伝えていること。

第5章 特定非営利活動法人クロスフィールズ

【きっかけ】

- ・シリアで感じた働くことの意義、美しさ、幸せ。
- ・大学の同級生の言葉、若者の情熱を消してしまいがちな会社組織、日本社会への憤り。

【きっかけをどのように次につなげたか】

- ・情熱を持って働く人たちが溢れる世界を創り、多くの人が「志事」を実現できている社会を創っていきたくて創業を決意。

【企業理念・ビジョン・ミッション】

- ・「すべての人が『働くこと』を通じて、思い・情熱を実現することのできる世界」

- ・「企業・行政・NPOがパートナーとなり次々と社会の課題を解決している世界」

【魔法の習慣】

大事な局面であればあるほど、重心を落とし、地に足を付けて、ロジックだけではなく五感で考えるようにすること。

編集後記（各取材で担当が印象に残った言葉）

◎第1章 横手 和彦氏

事業をやっていると棚からぼたもちということもあります。しかしそれは、普段から棚を吊っているから起こるのです。棚を吊るといのは、日々の精進と努力ということです。（小久保 周一）

◎第2章 芦澤 唯志氏

子どもの笑顔を見たり、保護者の笑顔を見たり、従業員の笑顔を見られたりすると、何よりも自分にとっての魔法、モチベーションですよ。（木下 岳之）

◎第3章 石水 修司氏

（記事では紹介できませんでしたが）「これで良いのか」って思うことが重要で、そう思えば人間としていつまでも成長はできると思っています。（設楽 英彦）

◎第4章 安井 佑氏

生きるか死ぬかではなく、生まれて死ぬという死生観をミャンマーで学びました。僕には、それがとても自然で、彼らが“生きている”ということにつながっているように感じられたんですよ。（齊藤 睦美）

◎第5章 小沼 大地氏

こうでならねばならないという考え方を止め、自然体に、オーセンティック（Authentic：本物の、信頼できる）なリーダーシップを取ることを心掛けています。（片平 智之）